

(五) 其他

(1) ファツシヨ粉碎闘争

同盟内部に於けるファツシヨ派の粉碎に就いては別項に報告の通りであるが、最近の國際的傾向に合流して擡頭せることの反動傾向は凡ゆる色彩をもつて、凡ゆる方面に擡頭しつゝある。従つて我が同盟は黨並に友誼團體と協力してかくの如き一切の傾向と勇敢に闘争した。

特に日本労働組合會議の結成大會に於ては、その内部にファツシヨ傾向の含まれてゐる關係上、大會決議をもつてファツシヨ粉碎の立場を明確すべきことを要求して戦ひ、我國の組織労働層へのファツシヨ傾向の侵入と戦つた。

その他、内部的には、標識紙の凡ゆる機關を通じて、ファツシヨの正體バクロとその粉碎の必要を組合員に徹底せしむべく努力した。

(2) 戰爭反對闘争

を占むるといふ彈壓である。

とにかくこの事件は、その原因は生産黨の暴力的脅威とこれに對する標木官憲の態度にあるのであつて、事件の責任の一半は明らかに彼等の負ふべきものであるが故に、更に我等は今後とも黨と協力してこの問題を戰ひ抜かねばならない。

(3) 東北飢餓救援闘争

昨年度に於ける北海道と東北地方の飢餓は、打續く農村不況と同地方農民の溝洲戰線への勤員等と相俟つて、東北、北海道一帯を極度の飢餓状態におとし入れた。我等はこの地方の飢餓救援闘争のために、黨本部と協力し基金募集懇問委員派遣等の闘争に參加して戦つた。

全國労働昭和七年度役員	
△中央委員長	河上丈太郎
△主事兼會計	菊川忠良
△中央委員	井口常次郎
茅野真忠	鈴木悦次郎
五好雄三郎	川原三郎

本年一月九日未明に栃木縣鹽谷郡阿久津村に於て突發せる

謂ゆる阿久津村事件は、遂に反動暴力團日本生産黨のゴロツキ三名を殺しその他十數名に重傷を負はせたのであつたが、

この事件の結果は、栃木縣下に於ける全國勞農大衆黨の組織

と我が全國労働の組織は一時壊滅をさへ遭へられた。小作爭議に端を發したこの事件は、中小資本家地主のファツシヨ的

前衛隊たる生産黨との亂闘であったことは、我國に於けるファツシヨ的反動暴力團との第一回の決戦として歴史的な意義

を有するものである。従つて亂闘後官憲の彈壓は栃木縣下の全同志に加へられ、一時は三百名の同志は獄舎に呻吟したの

であつたが、我等は大衆黨本部と協力してこの彈壓下にある

栃木の同志救援と黨並に組合の栃木聯合會再建のために應援

團士を派遣して勇敢に戦つた。その後數ヶ月、我等の努力は報ひられて、黨並に組合の從來の組織は全く再建され、犠牲

者家族救援闘争は今尚ほ着々と進められゝある。尙ほ五月

十九日右事件豫審は終結し、同志百八名に有罪の宣告が與へ

られたが、我が栃木聯合會は執拗なる公判闘争を通じて、同

志の救援闘争を續けてゐる。右百八名の罪名内容は、驗據首

魁二十一名、首魁幫助四名、殺人及び殺人未遂十三名、傷害十二名、卒先助成八十名、附和雷同六名であつて、首魁が最多數

敢行すべく努力した。

(4) 栃木再建闘争

今年一月九日未明に栃木縣鹽谷郡阿久津村に於て突發せる謂ゆる阿久津村事件は、遂に反動暴力團日本生産黨のゴロツキ三名を殺しその他十數名に重傷を負はせたのであつたが、この事件の結果は、栃木縣下に於ける全國勞農大衆黨の組織と我が全國労働の組織は一時壊滅をさへ遭へられた。小作争議に端を發したこの事件は、中小資本家地主のファツシヨ的前衛隊たる生産黨との亂闘であったことは、我國に於けるファツシヨ的反動暴力團との第一回の決戦として歴史的な意義を有するものである。従つて亂闘後官憲の彈壓は栃木縣下の全同志に加へられ、一時は三百名の同志は獄舎に呻吟したのであつたが、我等は大衆黨本部と協力してこの彈壓下にある栃木の同志救援と黨並に組合の栃木聯合會再建のために應援團士を派遣して勇敢に戦つた。その後數ヶ月、我等の努力は報ひられて、黨並に組合の從來の組織は全く再建され、犠牲者家族救援闘争は今尚ほ着々と進められゝある。尚ほ五月十九日右事件豫審は終結し、同志百八名に有罪の宣告が與へられたが、我が栃木聯合會は執拗なる公判闘争を通じて、同志の救援闘争を續けてゐる。右百八名の罪名内容は、驗據首魁二十一名、首魁幫助四名、殺人及び殺人未遂十三名、傷害十二名、卒先助成八十名、附和雷同六名であつて、首魁が最多數

△顧問	政治部長	植田重義
△専門部長	高橋松次郎	高梨二夫
△關西事務局長	河上丈太郎	山口常次郎
△同主任	高橋松次郎	寺西藤三郎
△同財政部長	久下本有	小松原光太郎
△出版部長	山村宇三郎	田佐久郎
△婦人部長	内田佐久郎	井河萬清
△法律部長	田中良雄	岩内とみ
△婦人部長	佐久良雄	井河萬清
△法律部長	高野岩三郎	高野岩三郎
△婦人部長	棚橋小虎	棚橋小虎